



# 会報 とやま

平成26年度

No. 1

(通算133号)

総会員数649名 (休会49名)

全157設

## 今号の内容

理事会報告	2~3
地区連絡会だより	4~5
研修会報告	5~6
リレーエッセイ	7
富山県高校野球選抜チーム台湾遠征トレーナー帯同記	8~9
物理療法機器点検	10~11
作品(写真・イラスト)募集	11
事務局インフォメーション	12
編集後記	12

## 二期目に思う

一般社団法人 富山県理学療法士会

会長 島 倉

聡

新緑のまぶしい季節も過ぎ梅雨入りが目前となってきました。早いもので会長になって二期目を迎えようとしています。(原稿を書いているときは総会前なので)

一期目は、法人化や東海北陸理学療法学会大会、四十周年記念事業など大きな事業があり、組織を顧みる間もなく進んできました。一息ついて士会を見てみると、若手会員の増大や委託事業など士会を取り巻く環境も変わり、対応が困難な状況も見られるようになってきていました。そこで、現状の体制を見直して学術レベルの底上げと対外的な事業に答えられるよう、五局十七部体制から六局十九部体制へと部局を改編いたしました。

まだ、動き始めたばかりでスムーズな活動になるまで、しばらく時間がかかるかもしれませんがご協力をお願いいたします。

また、厚生労働省においては、二〇二五年(平成三十七年)を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進しています。

地域の実情に合わせて作り上げていくことになりまますので、各自自治体レベルでそれぞれの特性が出てきます。当士会でも地域包括ケアシステムへの取り組みを始めようとしているところです。

地域の中で活躍できる専門性と社会性を身に着けられるよう研修会の企画も検討していますので、今後の活動範囲がさらに拡大されることに対応できるように、人材育成にご協力いただくとともに会員の活発な参加を期待しています。

二期目とはいえ、まだまだ手探りでよちよち歩いている状態で、見守りや介助が必要なので、皆様のご指導とご協力を心からお願いいたします。



剣岳

## 平成25年度 第7回 理事会(拡大役員会)報告

日時：平成26年1月11日(土)  
場所：サンシップとやま研修室601 14:00～  
出席者：島倉 川合 寺田 杉谷 酒井  
徳田 堀尾 森山 森田 柴田  
池田 廣田 山口 滝田 中村  
宮原 木内 笹川 仲川 中島  
城前 広川 炭谷 竹内 塚本  
書記：永山

### ＜報告事項＞

- 事務局 なし
- その他  
保険事業部：士会からウィンドブレーカーを7枚購入し、高岡厚生連で保管。

### ＜検討事項＞

- 平成26年度事業計画案について  
資料参照
- ＜学術局＞  
協会主催の研修会・認定必須研修会についての意見交換がなされた。  
[学術資料部]  
紙媒体から電子化への移行を検討していく。
- ＜教育局＞  
[生涯学習部]  
あすなる新人チャレンジセッションは、学会で開催していく予定！
- ＜職能局＞  
[業務推進部]  
代表者研修会の開催「ママさんPT」情報交換会の報告
- ＜社会事業部＞  
今後の講師派遣事業について検討する。
- ＜広報局＞  
[広報事業部]  
協会から週間事業の依頼を受ける。
- ＜事務局＞  
[財務部]  
会費未納者についての検討  
[福利厚生部]  
新入・転入者について、歓迎会とオリエンテーションを、研修会に変更する。  
[情報管理部]  
写真の管理を検討する。
- ＜委員会＞

### [倫理委員会]

初年度なので、マニュアル作成が必要  
[明日の理学療法士を考える会](仮称)  
(会長)…将来像を描く話し合いの場とする

- 平成26年度予算案について  
継続審議
- その他  
(会長)…「地域包括ケア」の研修会を開催する必要あり  
市町村のネットワークと人材育成  
⇒職能局に依頼  
・代議員選挙 3名分の立候補  
島倉、滝田、森田

## 平成25年度 第9回 理事会報告

日時：平成26年3月16日(日)  
場所：富山電気ビル4F 13:00～  
出席者：島倉 寺田 杉谷 酒井 堀尾  
森田 柴田 池田 廣田 山口  
滝田 書記：永山

### ＜検討事項＞

- 平成26年度事業計画案について話し合われた。
- ＜学術局＞＜教育局＞  
検討事項の報告、会員においては総会で紹介する
- ＜職能局＞  
地域包括ケアに向けた研修の開催を予定に組み込む
- ＜社会事業部＞  
[介護保険事業部]  
シルバーリハビリ体操の紹介について、協会の事務局に確認をとる予定
- ＜広報局＞  
[広報事業部]  
PT週間は協会とタイアップする。  
[理学療法啓発部]  
職場見学に109名24校の応募があった(去年は15校だった)  
来年度は、時期を夏に変更。
- 未納者の宣告  
カード受付機能がバージョンUPしており、受付で発見される。  
その研修を受け入れるか否かについての判断は、士会の判断とすること

休会の方が研修に参加する場合、参加費のみを徴収する

●特別事業

(柴田) …11/23学術大会の日程

2. 平成26年度予算案について  
書式等の変更を含めて検討される。
3. 平成26・27年度役員体制について  
理事15名  
・徳田先生と杉谷先生と川合先生の退任が受理された。  
3名退任のため、3名補充が必要
4. その他  
●地域包括ケア対策委員会の発足を検討する。  
⇒予備費から計上し、徐々に形づくられてきたら、どこかの部に入れる。  
●全国研修会開催の検討  
…協会からの通達募集あり  
未開催の都道府県は富山、福井、島根の3県  
4年先の29年度以降が未決定とのこと  
会場は、2,000～3,000人規模

## 平成26年度 第1回 理事会(拡大役員会)報告

日 時：平成26年4月26日(土) 午後2時～4時30分  
場 所：富山医療福祉専門学校

出席者：島倉 川合 寺田 酒井 徳田 堀尾  
森山 森田 柴田 池田 大野 廣田  
山口 滝田 清田 増山 宮原 木内  
笹川 仲川 中島 高橋 竹中 城前  
広川 炭谷 田中 布上 坂田 屋木  
長谷 里崎  
相談役：福江 塚本 書記：金川

### <報告事項>

- 理学療法部門代表者研修報告  
業務推進部の竹中より平成26年3月16日(日)にサンシップとやまにて開催された理学療法部門代表者研修の報告。参加者44名。
- F-ネコに利用について  
FAX通信で利用しているE-ネコが平成26年4月31日に終了、5月1日よりF-ネコに利用変更されるとの報告。

### <検討事項>

1. 平成25年度事業報告について  
各部署代表より事業報告される。一部報

告の不備・未確定の者に関しては5月連休明けまでに事務局に連絡するよう通達あり。

2. 平成25年度収支決算報告について  
財務部部長の徳田より一般社団法人富山県理学療法士会の平成25年度収支計算書の報告。県士会ホームページにて閲覧可能予定。
3. 会計監査結果報告  
監査員より報告。おおむね問題無かったが、細かい点で修正を指摘される。
4. その他  
○富山県地域包括ケアシステムアクションプラン  
協会から事務員の人件費として300万円の補助金が出る。  
○平成26年度富山県理学療法士会組織図確認  
各部の現状の人員状況を確認。

## 平成26年度 第2回 理事会報告

日 時：平成26年5月19日(月) 18:45～  
場 所：富山市民病院リハビリテーション科  
作業療法室

出席者：島倉 寺田 酒井 堀尾 森山 森田  
柴田 池田 大野 廣田 仲川 田中  
飯島 滝田 書記：滝田

### <報告事項・検討事項>

- 事務局報告：事務局郵送物、会員移動状況、公印・公文書使用簿等の報告。
- 社会事業局第1回局会議報告(5/15、高志学園)：理学療法週間事業は、7月12日(土)高岡イオンにて開催。
- 介護予防地域リーダーモデル導入研修会報告(廣田理事)：5/18、田町カンファレンスルームにて開催。介護予防推進リーダーは、①e-ラーニングの受講②導入研修の受講③士会の指定する地域活動に係る取り組みに参加 以上3項目を終了することで、【推進リーダー】としての資格が付与。職能局(医療介護保険部)・社会事業局(介護保険事業部)・広報局(広報事業部)にて協議して研修会開催。
- 第19回富山県理学療法学会学術大会の報告(柴田理事、大会長)：11月23日(日)、市立砺波総合病院講堂にて開催。沖繩リハビリテーションセンター病院の吉田貞夫先生に、リハビリ栄養学について特別講演していただく。

# 地区連絡会だより

## 高岡地区連絡会研修会報告

3月6日に高岡地区連絡会主催で開催された「リハスタッフが知っておくべき認知症の基礎知識」と題した研修会に参加しました。

今回の講師は、厚生連高岡病院精神科医師の武島先生でした。普段、聞くことのできない精神科医による、とても興味深い講義を聞かせて頂きました。普段の臨床では、あまり認知症の種類を考えての対応はできていませんが、今回の研修で得た知識を少しずつでも今後の対応に活かしていきたいと思いました。また、専門職として認知症に関する知識に関心を持っていかねばならないと改めて感じました

介護老人保健施設きぼう 高瀬 唯衣



平成26年4月3日に厚生連高岡病院にて高岡地区連絡会交流会を開催しました。9病院4施設から37名が参加されました。平成26年度の活動予定の報告の後、寺田 一郎先生（厚生連高岡病院）による診療報酬改定の要点についての講義がありました。最後に各施設の紹介や他施設との連携、各施設での悩み等を話し合いました。病院の参加が多かったこともあり、今回の診療報酬改定に関心が高く、自分の病院での解釈や疑問について活発にディスカッションされていました。

今後は、交流会や業務に直接繋がるような勉強会も提案されています。1人職場の方や、悩み等を相談できる場所がない方もおられるかもしれません。高岡地区では顔の見える関係作りを目指し、気さくに何でも話し合い、理学療法士としての職能を高めていきたいと思ひます。

高岡地区連絡会 運営事務 長井 瑠美（老人保健施設 きぼう）



## 高岡地区連絡会 新人歓迎会

2014年5月24日に、高岡市の千年の宴にて高岡地区連絡会新人歓迎会が開催されました。10施設から新人12名を含む36名が参加しました。お酒を飲みながらということもあり、開始前には硬かった新人会員の表情もすぐにほぐれていきました。仕事の話だけでなくプライベートな話でも大いに盛り上がっていました。新人会員同士の交流だけでなく、経験豊富な先生方から貴重なアドバイスをいただくことができ、とても有意義な2時間となりました。今後は勉強会などに積極的に参加し、親睦を深めるだけでなく高岡地区内で切磋琢磨できる関係性を築きあげていきたいと思ひます。

厚生連高岡病院 川上 昌大



## 研修会報告

### ★ 介護保険部研修会

むらおかクリニック デイケアてまりの丘 沢田 靖子

介護保険部では、平成26年3月7日(金) 西能病院ミーティングルームにて「老人保健施設からの在宅復帰に向けての取り組み…連携の大切さ…」のテーマのもと、老人保健施設みしま野苑一穂 作業療法士 田邊はるみ先生を講師にお招きし、研修会を開催しました。参加者は18名でした。研修会では、講演の後にグループでの意見交換や介護保険制度の改正案についての情報提供も行われました。



講師 田邊はるみ先生

田邊先生からは、在宅復帰を重視した観点から、入所者・利用者の情報収集についても、こういった流れで入所・通所しているのか、生活の把握、家族の状況の把握、など常に情報も更新してゆく必要があると説明がありました。

入所・通所でのリハビリテーションの内容についてもその人の生活を把握し、生活を変化させるリハビリを提供し、介護の場面においても、リハビリの目的を繋げられるように行うべきとのお話でした。

連携の大切さ・ポイントとしては具体的な内容の説明を行うこと（例：自主練習は紙を渡すだけでなく、本人一人で行えるように習慣化する：歩行能力は見守り・介助どのような場所・状態でどれだけ行えるのかを：介助方法はどこをどのくらいこうするなど）が必要であること、職員間の介助量や方法についてのコミュニケーションが大切とのことでした。

連携の大切さは、施設内・施設外どちらにおいても自分たちがやってきた内容を、うまく伝えて、行ってもらい、フィードバックし、サービスの質の向上のためにも常に更新してゆかなければいけないことを改めて確認することができました。

## あすなろ研修会 感想文

卒後教育部 アルペンリハビリテーション病院 中原 裕

平成26年2月9日(日)卒後教育部主催による「あすなろ研修会」が滑川市民交流プラザにて開催されました。午前の講演において、講演1は仁泉メディケアの中田健史先生より「学問としての理学療法と研究方法論」、講演2は富山大学の浦川将先生より「統計方法論」の講演、講演3は石黒幸治先生より「報告発表の仕方」の講演が行われました。中田先生の講演では、研究の種類、倫理的配慮、研究デザインの種類、バイアス等の研究についての基本的な点をおさえる内容でした。浦川将先生の講演では、統計について様々な例えを用いて、少しでも統計に慣れるように配慮された分かりやすい内容でした。石黒先生の講演では、発表内容の練り方、そして伝わるプレゼンテーションについて経験を交えて聞かせていただく貴重な内容でした。

午後の症例研究発表会は、演題数6題であり、運動器、神経系の専門領域研究会の先生方にアドバイザーとして参加して頂き、一般参加者も含め、ディスカッションを行いました。今回の演題数は去年と同じく少ない傾向であり、新人教育プログラムの変更により発表せずともプログラムを修了できるようになったことの影響が考えられます。質疑応答の時間は、前半は意見交換が少なく、やや10分の質疑応答の時間を持て

余している印象がありましたが、後半は意見が増えていき活発な意見交換がされていました。

来年度からあすなろ研修会は県学会の新人セッションに移行する方向で検討しています。貴重な症例検討の場であり、これまでの形を受け継ぎながら発展させていきたいと思っています。



## リレーエッセイ

# 「つれづれなるままに」

アルペンリハビリテーション病院 小 幡 直 輝

先日TVのスポーツ番組で、プロゴルファーの横峯さくら選手と夫でメンタルトレーナーのお話が紹介されていました。それは、自己評価ライン＝「OKライン」を高くしすぎないというものでした。あまり目標を高くしすぎても実現できなければ楽しくないし、自己嫌悪に陥ってしまうもの。心の健康を保ちながら成長していくのであれば自己評価に値する「OKライン」を調節していく必要がある。スランプ状態だった横峯選手の精神状態に気づき、夫からの助言もあり2人の共通の合言葉「OKライン」を設定し直したところ、横峯選手は調子を取り戻したそうです。行動とメンタルの結びつきの深さを感じ、僕もその都度適切な「OKライン」を設定していきたいなと思いました。

人生80年として日にちに直すと約3万日、僕は今年28歳になるので、約1万日。人生の1/3を歩いてきた計算になります。これからの人生においても、仕事が占める割合は大きいですし、楽しむための努力をしたいですね。プライベートでは最近星を見ることにはまっています。山小屋からみる星や石垣島からみる星など星空散歩したいです。ちなみにまだ流れ星に願い事を3回言えたことはありません。8月のペルセウス座流星群では願い事言えるようにしたいですね。夏のボーナスには望遠鏡を買いたいなと計画中です（笑）

当院では毎月朝礼があります。院長からそのとき状況に応じてお話があるのですが、僕が心に残っている言葉があります。人生は「チャ・チャ・チャのリズムで」という言葉です。言い換えると、人生を成功に導くにはチャンスがあればチャレンジしてチェンジしていくことが大切とのことでした。僕は人生は宝探しでもあると思います。楽しく・かっこよく・楽に。不器用ですが、限りある人生を楽しんでいくことが僕の目標です。そのために周りの人に感謝し、気持ちを伝えられる人でいたいです。



# 富山県高校野球選抜チーム

今回、富山県高校野球選抜チーム台湾遠征にトレーナーとして同行し、大変貴重な経験をさせていただきました。

私は普段、総合病院で皆さんと同じように怪我や病気の患者さんの理学療法を行っています。また、各種スポーツ大会のサポートに関わってきましたが、12/21~27（7日間）の長期間の帯同は初めてで選手以上に不安と期待が入り混じった状態で国内の練習会を迎えました。

国内練習会は全4回あり、サポートにあたって、まず理学療法士である私がこの事業に関わる目的を整理しました。その目的は、選手の障害予防と競技力向上としました。簡単に言うと、選手が怪我しにくく動きやすい身体を作る事です。練習会初日に、まずこの事を選手に伝えました。練習会では、黒田監督、阿波可監督をはじめ、県内の高校の監督もサポートにいられて、県内の指導者全体でレベルアップを進めて行こうという雰囲気を感じ取れて、私も出来る精一杯の事をして貢献したい気持ちが高まりました。



台湾遠征に向けた準備として、選手にはこれまでの怪我や現在の身体の不都合を聞いて、野球の競技特性や監督の要望を参考に、ストレッチや動き作りなどウォーミングアップのメニューを作成しました。その他、選手の体調管理も重要であり、体調管理表として日々の体温と体重の測定、1日の満足度・身体の動き・体調・対人関係を5段階で自己評価する用紙を作成しました。選手にとっては、冬場は野球のオフシーズンで通常では試合はなく春に向けた身体作りをする期間なので、選手各自がよいパフォーマンスを発揮するためにコンディションを調整する事は難しいと思います。台湾では気候や食事への対応も選手に求められます。練習会最終日には、現地での生活に対応できるように、ホテルでの乾燥対策や風邪の予防として普段からマスクを着用する事、食事や水分摂取についての注意点を伝えました。

台湾出発の日、感心した事は、ほぼ全員がマスクを着用して来た事です。風邪の集団感染を心配していましたが、マスク着用は予防への意識の現れと思い安心しました。

移動については、飛行機での移動、台湾国内のバス移動、そして観光は身体を硬くする要因となりました。このような場面でも短時間のストレッチや散歩などを取り入れて行く必要があったと思います。

食事では、初日、2日目と食事の質が低く、体重減少が集中してみられました。どんな環境でも食べる事が出来ることは大事ですが、特に初日はどこで何を食べるか、そして食べられなかった場合補助食の準備も必要だったと思います。



# 台湾遠征トレーナー帯同記

高岡市民病院 山口 城 弘

3日目以降、日に日に食事のレベルも上がり(初日が低すぎた?)選手は体重を戻して一安心しました。選手のケアは、ウォーミングアップ、クーリングダウン、登板後の投手のケアやケア希望者への対応などを球場やホテルで行いました。内容は、両監督からお任せしますという事で、多くの機会を与えて頂きました。

ケア内容と件数は、アイシング28件、低周波35件、テーピング10件、個別ケア44件、傷処置5件と合計122件、対応延べ人数は59名となりました。欲を言えば、選手を複数回みて、気付いた事をフィードバックできればよかったです。一人ではそこまで手が回らず、選手へのフィードバックは帰国後、選手個別にメールでさせて頂く状況でした。ケアでは選手と20分程度個別に関わるので、野球に対する姿勢や目標、学校や家庭での過ごし方、今後の進路、など選手それぞれにいろんな話をしました。



私なりに気付いた事として結果の出せる選手は、まわりへの気遣いがあり、自分の身体の感覚に敏感で、アドバイスには耳を傾けてまず取り入れてみる柔軟な対応が出来る選手ではないかと感じました。

また、チームは日を追う毎にまとまりが出てきたように思います。ムードメーカー、静かにしている者、ちょっかいをかける者かけられる者と選手それぞれですが、やはり野球を通じて集まったメンバーであり勝利という一つの共通目標があって、リーダーである監督を中心にそれを共有している事が今回の遠征の試合結果に出ているのではないかと思います。



解散式後、選手には「自分の身体の特徴を知ってどうすれば効率よく動く事が出来るか、日々の練習の中で意識していくことが、動きやすく怪我しにくい身体作りにつながる」と伝えました。

今後は、遠征に参加した選手が得た動き作りや運動後のケアの意識や方法をチームに広げていき、県内の競技力向上に少しでも役立てば幸いです。

最後に、このような機会を与えてくださった、富山県高校野球連盟の佐倉会長、伊東副会長、竹本理事長、黒田監督、阿波可監督、こころよく送り出してくれた職場の皆様、家族に感謝いたします。



# 安全な物理療法機器の使用の

## 1. 電源プラグ周囲の安全を確保しましょう。

電源プラグ周囲にゴミや埃等が蓄積して、湿気、水分が付加されると、トラッキング現象を引き起こすことがあります。電源プラグ周囲にゴミや埃等の蓄積が無いように掃除しましょう。また、電源プラグは確実に差し込み、根元部分が浮き上がらないようにしましょう。

## 2. 接続を確保しましょう。

医療機器として使用しています物理療法機器は、日本工業規格（JIS T 0601-1）の適用によりほとんどの機器が3Pコンセントを使用しています。3Pコンセントの機器は、延長コードなどは使用せず、壁面のコンセント等に直接つなぐようにしましょう。

電源プラグにぐらつきがある場合は、プラグ、コンセント両方の確認を行って下さい。接続が不完全な場合、異常発熱を発生する可能性があります。（接続のぐらつきが解消できない場合は、専門家の指示を仰いで下さい。）

また、2P変換プラグ、延長コードを使用した場合には、各プラグ、コンセント間の接続が不安定になり、次のような状態になることがあります。

電源プラグは直接つなぐようにしましょう。



## 3. 電源ケーブルの安全を確保しましょう。

電源プラグの抜き差しは、コードを引っ張って行わず、電源プラグを持って行いましょう。

電源ケーブルの発熱量が大きくなりますので、変換プラグを使用すること、電源ケーブルを束ねること、延長ケーブルを使用すること、タコ足配線をする事など、電源ケーブルに過度の負担がかかることをやめましょう。

また、電源ケーブルの断線を防ぐために、過度に折り曲げたり、長時間踏んだり、重量物を通過させたりしないようにしましょう。

## 4. 物理療法機器は日常点検、定期点検を行いましょう。

### 1) ホットパック加湿器の湯量を確認しましょう。

**過少な場合：**ホットパックが浸らない状態や空だき状態になる可能性があります。

**過剰な場合：**筐体上部の鉄板折り返し部分より、機器内部へお湯が漏れ出し、水が基板にかかる場合、漏電の可能性がります。

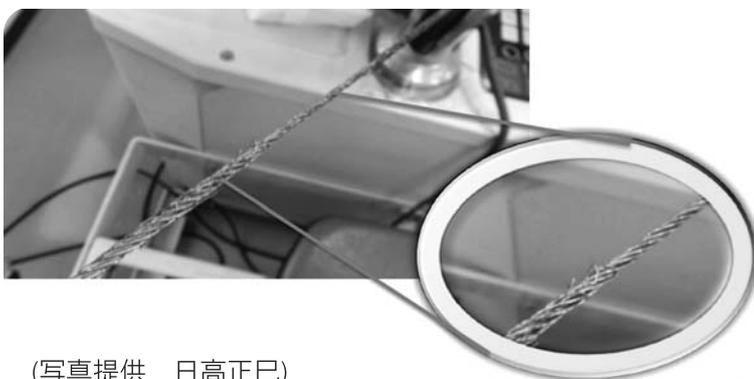


# ために、再点検しましょう！

## 2) 牽引機のワイヤーの劣化を確認しましょう。

牽引機を長時間使用していると、少しずつですが、ワイヤーが劣化してきます。

早めの交換で、患者さんに安心して治療を受けて頂きましょう。



(写真提供 日高正巳)

### ※物理療法機器安全点検のポイント※

1. 電源プラグ周辺をきれいにしましょう。
2. 電源プラグの接続は確実にしましょう。
3. 電源ケーブルは、束ねない、踏まない、延ばさないようにしましょう。
4. 物理療法機器は、始業時点検、終業時点検、定期点検をしましょう。

## 作品(写真・イラスト)募集

発行部では、「会報とやま」に掲載する作品を募集することになりました。テーマは特に設けていませんが、四季を感じさせる物・風景、何でも結構です。締め切りも特に設けていませんので、「これは!!」と思うものがありましたら、発行部までお願いいたします。

皆様からの作品をお待ちしております。

発行部長：長 谷 一



### お問い合わせ・作品の送付は下記まで

富山県高志リハビリテーション病院  
長 谷 一

TEL076-438-2233 / FAX076-437-5390  
E-mail:nagatani@koshi-rehabili.or.jp



## 事務局インフォメーション

- 平成24年4月1日より、日本理学療法士協会にて包括的会員管理システムが導入されました。それに伴い、当士会でも「異動」「休会」「復会」「入会」「退会」の手続きを、**全てWeb上で受け付けております**。諸手続きの用紙は受付けておりませんので、日本理学療法士会のホームページより諸手続きをお願いいたします。
- 会報を送付するにあたり、最近宛先不明で返送されるケースが増えています。お心当たりの方、また職場の変更のあった方も日本理学療法士会のホームページより諸手続きが必要です。お知り合いまたは近くに該当される方がおられましたら、お声掛けをお願いいたします。

### 編 集 後 記

今年度から「会報とやま」「きときとPT」の発行については、広報局発行部が担当することになりました。会員の皆様には御迷惑をおかけすると思いますが、よろしくをお願いいたします。又、会員の皆様の士会活動の情報を提供する場として利用していただければ幸いです。

(長谷)

2014. 6. 30

一般社団法人 富山県理学療法士会

〒936-0023 富山県滑川市柳原149-9  
富山医療福祉専門学校  
理学療法学科内

☎(076) 476-1716

発行人：島 倉 聡

編 集：長 谷 一

印 刷：志 貴 野 苑

士会URL:<http://toyamapt.umin.ne.jp/>  
事務局アドレス:[toyamapt-office@umin.ac.jp](mailto:toyamapt-office@umin.ac.jp)